



Title	日本語特有の謙譲表現・気遣いの表現をどう英訳するか : 日→英通訳の授業で現れる問題点を考える
Author(s)	小倉, 慶郎
Citation	大阪大学日本語日本文化教育センター授業研究. 2014, 12, p. 7-16
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/50786
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

日本語特有の謙譲表現・気遣いの表現をどう英訳するか

—日→英通訳の授業で現れる問題点を考える—

小倉 慶郎

【要旨】

筆者は、大阪外大時代から10年以上に渡って、本センターの外国人留学生に日英間の通訳・翻訳を教えてきた。この間半年ごとに替わる、多国籍・多民族からなる留学生クラスからはさまざまなことを学んだ。その一つに、日本語・日本文化にしかないと思われているようなことは他国にも少なからず存在する、ということがある。東アジア全体、特に韓国・中国と比較して日本が独自だと思えることは、非常に少ないようだ。本稿で取り上げる日本語の謙譲表現、気遣い表現もどこの国・文化にも見られるといい。しかし、過去の留学生達との度重なる対話から、日本ほど、過剰に謙譲表現・気遣い表現を使用する国はまず無い、と確信するようになった。それは、フォーマル・スピーチの日→英通訳における「障害」となっても現れている。本稿では、日本語特有の謙譲表現・気遣い表現を、日→英通訳の視点から整理し、どう訳されているか、どう訳すべきかを考察したい。

はじめに

筆者の通訳の授業では、英→日と日→英の逐次通訳および同時通訳の訓練を行っている。しかし扱う教材は日→英の方が多い。CJLC修了後、企業等で通訳をする場合、日本語から母語または英語へ転換する業務が圧倒的に多いことが、過去の留学生からの情報でわかっているからだ。そして通訳訓練の際に、授業の冒頭で英日の「式辞挨拶集」を暗唱させていることは『授業研究』第4号で述べた。企業等で通訳をする際には、フォーマルな日本語表現が頻出するが、これは留学生の盲点であり、実際の通訳現場でも一番面食らうようだ。意味が取れないだけでなく、フォーマルな英語表現にどう訳したらよいかわからないのである。『授業研究』第4号ではその問題点を幅広く考察した。

本稿では、特に、日→英のフォーマル・スピーチ通訳で現れる日本語特有の謙譲表現・気遣いの表現に絞り、日→英通訳の視点から整理し、どう訳されているか、どう訳すべきかを考察したい。

1. 日本語特有の謙譲表現とは

日本語の過度な謙譲表現は、日本人向けの英語学習参考書にも紹介されている。以下『大杉正明のWhat's New Today?』（DHC）から引用する。日本で暮らしているカナダ人のAndrewが、友人の息子のピアノコンサートに行く。素晴らしい演奏だったので、当然のようにその友人に賛辞を述べる。（ADはAndrew、OSは大杉の略）

AD: So after the concert, I said to my friend, "You know, your son plays so wonderfully, I really want to compliment his ability."

OS: Um hmm.

AD: Guess what my friend said to me?

OS: What?

OS: My friend said, "My son is not talented. He's kind of stupid." Why, why would he say that?

ア：ですからコンサート後に、友人に「あなたの息子さんの演奏は本当に素晴らしい。彼の能力を褒め称えたい」と言いました。

大：なるほど。

ア：その友人、何と言ったと思いますか？

大：何でしょう？

ア：「息子には才能がありません。頭もあまり良くないし」と言うんです。なぜそんなことを言うんでしょう？(pp.118-9)

日本人には当たり前の「謙遜」だが、これほどの「過剰な謙譲表現」(extra-modest expression)は世界中のどこにも存在しないようだ。文化の共通性があるアジアからの留学生、特に中国人、韓国人に聞いてもこれほどの過度な謙遜は存在しないという。

本センターの通訳の授業では1回目または2回目の授業で、「そのまま英語にしてはいけない日本語」というタイトルの1枚のプリントを配布することになっている。日本語特有の謙譲表現に慣れてもらいたいためである。以下(1)～(5)は『ボランティア英語のすすめ』(はまの出版) pp.150-2からの引用である。なお英訳は直訳のみを載せており、こう訳してはいけないという例である。

(1) 何もありませんが、お召し上がりください¹⁾。

There is nothing to eat but please eat it.

(2) つまらないものですが、お受け取りください。

This is a worthless thing, but please accept it.

(3) 未熟者ですが、ご指導ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。

I'm just a novice, so I ask for your guidance and teaching.

(4) これが愚妻のマリコ、うしろにおりますのが、愚息のタケオでして

Here is my stupid wife Mariko. Behind her is my silly son Takeo.

(5) ささやかなパーティーでございますが、ゆっくりくつろがれ、ご歓談頂きたいと思います。

This is but a modest party, but please relax and chat with each other.

(6) 弊社は今年で創立50周年を迎えました。

This year marks the 50th anniversary of the founding of our bad company.

(7) 拙訳をご覧ください。

Please take a look at my poor translation.

(6)(7)は筆者が作った例であるが、(6)の弊社という表現は、日本企業では頻繁に使われる表現である。私は授業では次のように説明する。

弊社の「弊」とはどういう意味だろう？（中国人留学生に当てる）そう、悪い意味だね。「弊」は漢和辞典によれば、「犬が倒れて死ぬ」という意味だから、'to fall down and die like a dog'とでも訳せるかな（笑）。弊社は結局、our bad companyとへりくだっていているんだね。拙訳の「拙」は「拙い」だから、my poor translation, my bad translationという意味だ。

こうした謙譲表現の通訳・翻訳に関して『授業研究』第5号で筆者は、次のように書いた。

通訳・翻訳の授業では、どうしても日本語の謙遜表現について触れないわけにはいかない。通訳の現場であれば、その分野の権威であっても、講演の冒頭で謙遜して「つまらないお話ししかできませんが」などとへりくだることはよくあるからだ。英語にも謙遜表現は存在する。しかし、日本語の謙遜表現はあらゆるシチュエーションで使われ、しかも英語に直訳するといかにも奇妙に響く。.....こうした日本語の謙遜表現については、私はいまのところ次のような説明をすることが多い。

英語は、日本語に比べると相手を褒めたり、感謝したりする表現が発達していると私は感じています。英語にも、謙遜表現に相当するような、It is my pleasure.... I am honored...という言い回しもありますが、「私はうれしい」「私は名誉だ」といって、結局は相手に感謝する表現になっていることに注意しましょう。このように英語は、相手を褒めたり、感謝したりして相手を高めるという表現が多いようです。一方日本語の謙遜表現は、自分を卑下し低くしますが、効果から見ると、自分を下げることは結局相手を高めているのと同じでしょう？英語は相手を高め、日本語では自分を低くする。両言語で表現の仕方は違いますが、結局どちらも、目的は同じと考えてはどうでしょうか？（pp.18-19）

『敬語表現ハンドブック』（大修館書店）では、謙譲語（自己卑下語）を次のように説明している。

相手（側の物事を含めて）に配慮するためには、相手を直接に高くする方法もありますが、自分を低くする方法もあります。実際には「よくない（弊）・つたない（拙）」と聞いていなくても、謙遜して・謙^{へりくだ}って表現することによって、結果的に相手に対する敬意を表すことになるのです。（p.31）

留学生へは、「日本語では相手を褒める表現が少ないが、それは謙譲表現の豊富さによって補完されている」と筆者は説明している。

世界中のほとんどの文化・言語に謙譲表現は存在するようだ。英語でも、プレゼントを渡す

時に、I have a small gift for you. などという表現を使うことがある。しかし、これは本当に普通の贈り物を渡すときに使われるのであって、極めて高価なプレゼントを渡すときに使われるものではない。またある分野のトップクラスの専門家が、レクチャーの前に「お聞き苦しいところがあるかもしれませんが」などと謙遜したりする。かなり高価な料理が出されるパーティーでも「何もございませんが」という時もある。これが本論で取り上げているextra-modest expressionであって、これは日本語特有の表現であると断言していいと思う。

(1)～(7)の例を授業で留学生に説明すると必ず嘲笑に近い笑いが起こる。しかし、いましがた嘲笑したばかりの留学生に、「君たちもextra-modest expressionを習得しているよ。日本人に『日本語お上手ですね』って言われたら何て答える？」と尋ねる。こういうとみんな「あっ」という顔をする。任意の生徒を指名すると「いいえ、まだまだです」と言いますね、と答えが返ってくる。クラス一同納得の顔つきである。本当に日本語学習の期間が短いとか日本語初級者なら「いいえ、まだまだです」と言ってもよいだろう。しかし私の通訳のクラスの受講生は日本語レベル上級者のみであり、母国に帰れば日本語の達人として称賛される学生ばかりである。その学生たちが、「日本語お上手ですね」という問いに対して「いいえ、まだまだです」と答えるのだ。これほどの謙遜は日本語以外ではありえない。もしもこれが彼らの母国語の応答であれば、返事には、自分の能力に対する誇らしい言葉が並ぶはずである。

本稿では、このような「日本語特有の過剰な謙譲表現」と、また同じように広く使われる「気遣いの表現」を取り上げ、フォーマル・スピーチの中でどのように英語に訳されるのか、訳すべきなのかを考察したい。

2. 謙譲表現の通訳の実例

本節と次節で取り上げる例は、ほとんどが*Handbook of Formal Speech for Interpreters*『通訳のための式辞挨拶ハンドブック』（以下*Handbook*と表記）からの引用である。*Handbook*はオーストラリアのモナシュ大学大学院の通訳コースで使用されていたテキストで、オーストラリアのメルボルンの数人の通訳者による実際の通訳例、あるいはそれを少々改変したものを例文に使用している²⁾。したがって、著者が頭で考えた「あるべき通訳例」というよりも「実際の通訳例」を見ることができる非常に貴重な例文集といえる。筆者の通訳の授業でも活用させてもらっているが、本稿では、主にこの*Handbook*の解説と実例をもとに考察を進めたい。

(8) I have the great pleasure of presenting Mr/s [N] with this small token of our esteem and affection.

ここに、ささやかではありますが、[N] 様に対する私たちの尊敬と愛情をこめて記念品を贈呈致します。(p.35) (傍線は筆者。なおNはnounすなわち名詞を表す)

「ささやか」はsmall token (ちょっとしたしるし) と訳されている。英語にもほぼ日本語に相当する謙譲表現の語句がある例である。*Handbook*ではExpressions of modestyと題して以下の説明がある。

No doubt readers are familiar with Japanese like 何もございませんがused offering food

and drinks. These phrases to express modesty occur also in formal speech. For example, 何もございませんが、どうぞお楽しみ頂ければ幸いです may be best interpreted, 'We have arranged a little food and beverage, and I hope you will partake of this and enjoy yourself.' For つまらない物ですが、お受け取り下されば幸いです, a suitable interpretation would be, for instance, 'I have brought a small gift for you, and would be pleased if you accept it'. (p.3)

ここでは「何もございませんが」はa little food and beverage、「つまらないもの」はa small giftと訳している。それでも、ここで日本語と英語の謙譲表現が完全なイコールではないことに注意したい。日本語の場合、お金のかかるパーティーや高価なプレゼントの場合にも、「何もございませんが」「つまらないものですが」ということがあるからである。

(9) まことにささやかな晩餐ではありますが、皆様のご協力に感謝の意を表する意味で本席を設けた次第です。

Tonight's dinner is a very modest affair but we have organized it as a gesture of thanks to everyone for your efforts. (p.43)

「ささやかな晩餐」をa modest affairと訳している。簡単な立食パーティーの場合ならこれでよいと思うが、豪華なパーティーでは謙遜の語句を省略した方がよいだろう。つまり次のように訳すべきであろう。We have organized tonight's dinner as a gesture of thanks to everyone for your efforts.

(10)このことが日豪両国の友好親善の為、地元地域の発展の為に、僅かなりとも貢献できますれば幸いと、思うものでございます。

We will be happy if we can contribute to the friendly relations between Japan and Australia as well as to development of this district. (pp.82-3)

「僅かなりとも」は「私たちに力はないが」というニュアンスの謙譲表現である。even if it is a small oneなどと直訳してもさすがに変なので、この謙譲表現は削除している。

以下(11)～(13)の例文のみ、『実践英語スピーチ通訳』から引用する。

(11) 皆様の何らかのお役に立てればたいへんうれしく思います

We would be very pleased if we can be of any help to you. (p.62)

「何らかのお役に立てれば」という表現は、気づきにくいですが、やはり謙譲表現である。(10)と同様「私たちには力はないが」というニュアンスである。上記の英訳は直訳だが、英語としてはあまり普通とは言えない。謙譲表現は省略して、We would (or will) be happy to help you.と訳しても十分である。

(12) 私たちは皆さんが多くのことを学べるように、できる限りお手伝いいたします。

We will do the best we can to help you learn as much as possible while you are with us.
(p.62)

これも気づきにくいが謙譲表現である。ニュアンスは(10)(11)と同様である。英訳は明らかにredundantである。as much as possibleは省略してWe will do the best we can to help you learn while you are with us.とした方が良いだろう。

(13) この度のアジア学生会議の成果が今後の沖縄の振興に寄与する一端になることを、心から期待申し上げます。

I expect that an outcome of this year's ASC will be a contribution to the future promotion of Okinawa. (p.64)

「一端」とは「一部分」という意味だから、part ofまたはpartlyという英語に相当する。しかし、直訳してI expect that an outcome of this year's ASC will partly contribute to...あるいは、...will be part of the contribution to...と訳すと、明らかにおかしい。partly, part ofは不要である。筆者が初めて指摘することだと思うが、これはやはり(10)(11)(12)と同類の謙譲表現と考えるべきであって、「私たちには力は無いが、ほんの少しでも貢献できたら」というニュアンスを表しているのである。英訳ではこの部分は省略している。

(14) 僭越ではございますが、私が乾杯の音頭を取らせていただきます。

I am honoured to be able to propose the evening's toast. (p.32)

*Handbook*では、以下のような解説を載せている。

A similar example to emphasize modesty is, 僭越ではございますが, which literally means 'please excuse me for being presumptuous'. (Example: 僭越ではございますが, [N]を代表いたしまして、一言ご挨拶申し上げます). It will be best interpreted 'I am greatly honoured to (assume this role of~), (say a few words on behalf of)'. (p.3)

「僭越」(英語ではpresumptuous)は謙譲表現だが、これをhonoured「光栄である」という称賛の表現に置き換えている。日→英通訳においてcultural equivalentを用いた例といえるだろう。

(15) 貴市におかれまして進んだ老人福祉対策をいろいろご教示賜り参考にさせていただければ幸いです。

We would very much appreciate learning about your city's progressive welfare system for the aged. (p.31)

(15)(16)(17)は類例である。こちらが研修生で、相手が指導する立場なら「ご指導」「ご教

示」という言葉を使うのは当たり前だろうが、対等の立場、もしくはこちらの方が知識豊富であっても「ご指導」「ご教示」という謙譲表現を日本語ではよく使う。*Handbook*では以下のように説明している。

At certain visits, such as visits to institutions or professional organizations, which have an educational objective, whether it is to view the premises or to obtain information, a speech by Japanese delegates almost always includes a statement of 'wishing to learn' using phrases like ご指導いただく、ご教示賜る、ご参考にさせて頂く、ご意見を賜る。(Example: 'We look forward to an informative/instructive visit,' 'We would be grateful for any information and advice that you can give us,' 'We look forward to hearing your views.')(p.3)

「ご指導」「ご教示」だから guidance とか teach といった英語を使いそうなところだが（実際留学生にやらせると I would appreciate your guidance... とか I would be happy if you could teach... と訳す学生もいる）、ほとんどの場合 learn 「学ぶ」で十分である。

(16) この度の訪問は、私たちにとりまして大変有益な経験となると期待しておりますので、よろしくご指導下さるようお願いいたします。

We anticipate that this visit will be a rewarding one for us and look forward to learning from you. (P.47)

「ご指導下さる」はやはり learn from you と訳している。

(17) ご多忙のこととは存じますが、よろしくご教示くださいますよう（ご指導賜りますよう）
お願い申し上げます。

I realize that you are very busy, but I would be most appreciative of your guidance. (P.47)

この英訳は、英語としてはやや awkward であるが、日本文化を尊重して直訳した例。「あまり英語風に訳すと文化的要素が消えてしまう」という留学生の意見も授業中に時々聞かれるが、聴衆の大半が日本文化に理解がある場合は、直訳調にする場合もありうる。結局、通訳は聴衆次第で変わることがあるのである。

3. 配慮表現の通訳の実例

(18) この度は公務多忙中のところ私ども視察団を快くお受けいただきましたこと、まことに
ありがたく、ここにお礼申し上げます。

May I take this opportunity to thank you for sparing your valuable time to receive our delegation today. (p.19)

Handbookでは、「ご多忙中にもかかわらずご出席頂きましてありがとうございます」という表現に対して次のような説明を加えている。

Instead of referring to the person as being busy, it is better to use different expressions such as: 'Thank you for giving up your valuable time to attend this function', 'sparing us your precious time' and 'making time'. Other expressions for the underlined part are お忙しい中 and お忙しいところ。(p.2)

英語としては、despite your tight (or busy) scheduleと直訳しない方が自然である、ということである。以下(19)～(22)は類例である。

(19) 本日はご多忙中私共のために貴重な時間を割いて頂き、厚くお礼申し上げます。

We would like to express our gratitude to you for making time for us today. (p.44)

(20) 今日ご多用の中、私たちを暖かく迎えて下さったことに対し、重ねてお礼申し上げます。

We would once again like to say how grateful we are for you taking the time to give us such a warm welcome today. (p.44)

take the time to doという表現は、現代英語で頻繁に使われる表現であり、留学生の英語母語話者もこの表現を使うことが多い。

(21) ～の皆様には、お疲れにもかかわらず、この会のために貴重な時間を割いてご出席くださいまして、誠にありがとうございます。

Thank you very much indeed for giving up your valuable time to attend this meeting. (p.45)

これは日本語と英語の表現がほぼ等しい例。

(22) お忙しい中、ご出席頂きましたことを感謝申し上げます。

We are most grateful that you have been able to attend today despite your busy schedule. (p.45)

このように直訳することも可能である。通訳において、相手国の文化を尊重するという立場から、できるだけ直訳をする留学生もいる。ヨーロッパ系の留学生に多いようだ。

(23) この会議を主催するに当たり、すばらしい仕事をしてのけられた[N]氏、大変お疲れ様でございました。

We would like to congratulate Mr. [N] for/on the wonderful work he has done in organizing this Congress. (p.31)

「お疲れ様」という配慮表現には、英語のequivalentは無いが、We would like to congratulate (私達は褒め称えたい) という称賛の表現に置き換えた例。

(24) ベトナムからはるばる弊社をご訪問くださいました皆様に、心から歓迎のごあいさつを申し上げます。

I would like to extend a warm welcome to our guests from Vietnam. (『実践英語スピーチ通訳』p.59)

直訳すれば、Thank you very much for coming all the way to Japan from Vietnam. となるだろうが、英訳では「はるばる」の部分は省略し、英語のフォーマル・スピーチとして自然な表現にしている。

(25) 本日、ヤマサシーフードオーストラリア社の工場竣工の式典を催しました処、メルボルン日本領事館総領事菊池様、ワラビー市市長ジョン・ギボンズ様をはじめご来賓の皆様方には、御忙しい中にもかかわらず、わざわざご出席くださいますて、誠に有難うございました。The Hon. Phil Gude, Min. for Industry and Employment, Consul-general of Japan, Mr. Kikuchi, Mayor of Werribee, Councillor Gibbons, distinguished guests, ladies and gentlemen. It is an honour and a privilege to welcome you all to the official opening of the new plant of Yamasa Sea food Australia. May I express my deep appreciation for your attendance today. (pp. 82-3)

「わざわざ」は日本語の典型的な配慮表現である³⁾。しかし、この例では「わざわざ」を直訳してThank you for taking the trouble to attend today's ceremony. などとはせずに、「わざわざ」の部分は省略し、英語として自然な表現に改めている。

結語

本稿で取り上げた謙譲表現と気遣いの表現の英訳例は次の5種類に分類することができるだろう。

1. 英語のequivalentを用いて訳した例。(8)(9)(18)(19)(20)(21)
2. ややawkwardであるが直訳した例。(11)(12)(17)(22)
3. 英語の「称賛の表現」に置き換えて訳した例。(14)(23)
4. 省略した例。(10)(13)(24)(25)
5. 謙譲でない、通常の英語表現に置き換えた例。(15)(16)

そして、この分類のうちどれに訳すかは、聴衆によって、また通訳者が相手国の文化にどれだけの敬意を示すかによっても変わってくるのである。以上が、過去10年間の留学生との対話から得られた結論である。

注

- 1) 金田一春彦『日本語(上)』は、日本人が贈り物をするときに「つまらないものですが」と言ったり、お客

に食事を用意した時に「何もございませんが」という理由を、日本人の「恩」の精神から説明している。

.....これについてベネディクト（Ruth Benedict、筆者注）がうまい説明をしている。日本人は、人から物をもらうと何とかして返さなければいけないと思って、苦しむ人間だから、と言うのである。つまり「恩」の精神が日本人の行動を規定し、日本語の上に働いているのである。（中略）

要するに、他人に物をもらうと、たいへん日本人は苦しむのである。このことから、日本人は他人に物が簡単にあげられないことになる。「これをあなたにあげたなら、あなたはお返ししなければいけないと思うだろう」と思うのである。それをやわらげるためには、他人に物を贈る場合に、日本人らしいあいさつが生まれる。たとえば「まことにつまらないものですが」というような。これに対してアメリカの人は、なぜ、つまらないと知って持ってきたか、と思うそうであるが、日本人としては、これはあなたにさしあげるけれども、つまらないものだからお返ししようとしなくてもいいのだ、という意味なのだ。「何もございませんが、召し上がってください」と言う言い方も、これを食べても何も食べなかったと同じだと思ってほしい、という日本人のやさしい心のあらわれだということになる。（pp.239-40）

ただし、これは主に贈り物に当てはまる説明であって、日本語全体に存在する過剰な謙譲表現を説明してはいない。

- 2) *Handbook* では次のように書かれている。「日英語通訳者・翻訳者協会の会員6名は、実際に自分達が通訳した式辞挨拶の原稿を分析して、『通訳のための式辞挨拶ハンドブック』を作成しました。」（p.3）
- 3) 「わざわざ」は、配慮表現の副詞として、『コミュニケーションと配慮表現』（明治書院）でも取り上げられている。（pp.195-6）

参考文献

金田一春彦（1988）『日本語 新版(上)』岩波書店

篠田顕子・新崎隆子（1995）『ボランティア英語のすすめ』はまの出版

Goodman, M& Greenwood, R & Hirata, K&Mayer, M & Pinda, M & Pinkerton, Y（1996）*Handbook of Formal Speech for Interpreters* 通訳者のための式辞挨拶ハンドブック Revised Edition, Japanese Study Centre Monash University, Melbourne

ピンカートン暉子・篠田顕子（2005）『実践英語スピーチ通訳』大修館書店

小倉慶郎（2005）「日英翻訳では何が問題となるのか—留学生センターの授業から—」『授業研究』第3号

小倉慶郎（2006）「通訳の授業における「式辞挨拶集」の使用について—「挨拶集」暗唱の有用性を考える—」『授業研究』第4号

小倉慶郎（2007）「「神様」の英訳から見た、現代日本人の宗教観—「共通基盤」から日本事象を説明する試み—」『授業研究』第5号

蒲田谷宏・金東奎・高木美嘉（2009）『敬語表現ハンドブック』大修館書店

山岡正紀・牧原功・小野正樹（2010）『コミュニケーションと配慮表現』明治書院

（おぐら よしろう 大阪府立大学教授、本センター非常勤講師）